

(別紙4-1)(ユニット1)

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0172902041		
法人名	株式会社ケアクオリティ北海道		
事業所名	グループホームななかまど		
所在地	旭川市緑町19丁目2656番の1		
自己評価作成日	令和6年11月20日	評価結果市町村受理日	令和7年3月17日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=0172902041-00&ServiceCd=320

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	合同会社 mocal
所在地	札幌市中央区北5条西23丁目1-10-501
訪問調査日	令和6年12月26日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

家庭的な雰囲気と画一的ではない個別のケアに力を入れています。ひとりひとりのご利用者に応じた、その方のペースで生活できるように努めています。1階フロアは市内でも少ないペットとの入居が可能となっており、入居後も大切なペットと生活することができます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ななかまどの赤い実が雪にひときわ映えている旭川市の緑町地区に位置している事業所は、平成17年に開設しています。理念の見直しがあり、利用者や職員に主眼を置いた「あなたらしく 私らしく」を新たに策定しています。殆ど利用者は「最期までここで暮らしたい」との意向を示しており、職員は、それまでの一緒の時間を利用者が笑顔でいられるよう多様な企画を立て実践しています。動物園や紅葉巡り、買い物や外食、映画館や釣り堀に誘い、暑い日は利用者に好評のソフトクリームを食べに出かけています。食が楽しみになるよう一汁三菜を基本に、ときには寿司店でランチ、豚丼やオードブルを持ち帰り、おやつは白玉団子に餡やきな粉を絡め、懐かしい味を食卓に上げています。入浴日以外にも温もりが感じられるよう、湯の花を入れた足湯を用意し、また、短い夏を満喫できるよう、駐車場で花火大会を行っています。

V サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取組を自己点検した上で、成果について自己評価します

項 目		取組の成果 ↓該当するものに○印		項 目		取組の成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向をつかんでいる (参考項目:23、24、25)		1 ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9、10、19)		1 ほぼ全ての家族と
		○	2 利用者の2/3くらいが			○	2 家族の2/3くらいと
			3 利用者の1/3くらいが				3 家族の1/3くらいと
			4 ほとんどつかんでいない				4 ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18、38)	○	1 毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2、20)		1 ほぼ毎日のように
			2 数日に1回程度ある				2 数日に1回程度
			3 たまにある				3 たまに
			4 ほとんどない			○	4 ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1 ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)		1 大いに増えている
			2 利用者の2/3くらいが				2 少しずつ増えている
			3 利用者の1/3くらいが			○	3 あまり増えていない
			4 ほとんどいない				4 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36、37)	○	1 ほぼ全ての利用者が	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11、12)	○	1 ほぼ全ての職員が
			2 利用者の2/3くらいが				2 職員の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが				3 職員の1/3くらいが
			4 ほとんどいない				4 ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1 ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが				2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが				3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない				4 ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30、31)	○	1 ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1 ほぼ全ての家族等が
			2 利用者の2/3くらいが				2 家族等の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが				3 家族等の1/3くらいが
			4 ほとんどいない				4 ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1 ほぼ全ての利用者が				
			2 利用者の2/3くらいが				
			3 利用者の1/3くらいが				
			4 ほとんどいない				

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価		
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅰ 理念に基づく運営						
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念を作り、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所の理念に基づいて、普段の利用者様の支援を行っている。	理念を見直す機会があり、管理者始め職員の総意で、利用者を尊重し、職員が自分らしく支援することを趣旨とした「あなたらしく 私らしく」を新たに策定しています。振り返りを行いながら、理念の実践に取り組んでいます。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	現状、あまり地域の方々の出入りは行えていない。	町内会活動の資源物回収の協力や近くの商店での購入、また、周辺の道路までの除雪は恒例になっています。職員の家族が民謡や詩吟、踊りなどのボランティアとして訪れ、利用者の五感を刺激しています。今後に向け、地域交流の強化を検討しています。		
3	3	○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	包括支援センター主催の認知症講座に管理者が出向き、認知症についての講座に参加している。			
4		○運営推進会議を活かした取組 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議についてあまり参加者が集まりにくい状況がつついているが、書面でのやり取りの中で意見の集約、報告を行っている。	会議は書面とし、運営状況等を記載した議事録を推進委員に配布しています。委員から会議の日時設定の要望や利用料変更、特定技能実習生の受け入れ等に意見が寄せられています。	議事録に利用者や職員の状況、外出行事など活動内容、事故やヒヤリハット等の報告も取り入れ、さらに対面会議には推進委員の出席を呼びかけ、意見や情報交換の場となるよう期待します。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	ケアサービスの現状や介護保険法の中での疑問等あれば電話などで相談、確認を随時行っている。	管理者やリーダーは、行政各部署の職員とメールや電話、来訪時に報告や相談、情報提供を行い、運営の質向上や利用者の安定した暮らしを支えています。管理者は、地域包括支援センターによる認知症の啓蒙活動に協力しています。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束について研修を行い、身体拘束につながるようなケアの方法についても管理者、介護職員の中で議論し、行わないようにしている。玄関の施錠も夜間の限った時間に限定している。	身体拘束の適正化については、指針に沿った委員会や研修会を定期的に開催しています。スピーチロックや高圧的な言葉遣いが聞かれたときは、職員間においても注意喚起を呼びかける態勢を整えています。	職員は、常に利用者本位の支援に努めており、適正化委員会や研修会の内容の理解に努めていますが、各々の議事録の整備により職員の意識統一に繋がる取り組みに期待します。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止、不適切なケアについての研修を行い、事案が起こっても見過ごされないように注意していくことを共有している。			

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	必要があれば成年後見制度につなげるなどの対応を行っている		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時に契約書の内容を説明し、不安や疑問点などについては確認した上で契約を行っている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議の他、ご家族が意見を言いやすいように普段から管理者に限らずリーダー等介護職員がご家族とコミュニケーションをとっている。	家族には、毎月の便りの中で個別の現状報告や受診結果等の詳細な様子を、日常生活の様子の写真も載せて知らせています。電話や面会時を通して意見や要望の聞き取りに努めています。家族の要望に応じ、身内の芸能発表会に利用者の同行支援も行っています。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	代表者、管理者ともに職員の意見等を聞く機会を設け、可能なものは反映し、すぐに可能でないものについては都度説明を行っている。	職員は各業務をそれぞれにこなし、知識や技術の習得に努めています。利用者のやりたいことや食べたいもの、楽しめることを常に考慮しており、そのための提案などを上司に伝えています。代表者や管理者は、出来る限りその思いに応じています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は各職員の実績や勤務状況を把握した上で職場環境や条件の整備に努めている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	必要に応じて外部の研修などに参加の要請を行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組をしている	管理者は包括支援センターの「管理者のつどい」に参加する、またはグループホーム協会に参加している		
Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	初期、利用者ご本人に慣れていただけることを優先に、積極的にコミュニケーションをとっている		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	初期、利用者様の様子などをご家族にお伝えし、要望をお聞きしたり、前の生活環境でどうだったか等の聞き取りを行っている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	その時に必要なサービスを本人、ご家族との検討し。必要があれば他のサービスの紹介も行っている		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者様に積極的に家事に参加していただく対応を行っている		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	病院受診の付き添いや、外出外泊の支援等、ご家族にも参加していただくようにしている		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	現在は該当する方がいないが、お友人の面会やサークル活動の参加の支援を行っている	職員は、元漁師の利用者を誘って釣り堀に行き、当時は彷彿させる顔つきや身のこなしを目の当たりにしています。面会では、3世代が揃うこともあり、また、孫の日本舞踊発表会に職員が同行支援しています。家族の支援で墓参が実現しています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様同士が会話できるなどを考慮し、食堂の座席等を案内している		
22		○関係を断ち切らない取組 サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	現状、該当するケースはないが必要に応じて相談を受け、フォローを行う。		

Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	可能な限り希望、意向を確認して反映できるように努めている。意思表示が難しい方は本人本位の生活が出来るように努めている	殆どの利用者とは意思の疎通ができています。困難な場合でも、動作や表情、家族からの利用者の趣味や嗜好などの情報を参考に読み取っています。理念である「あなたらしく 私らしく」を念頭に置いて、利用者の思いに寄り添った支援を行っています。	
----	---	--	--	---	--

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	これまでの生活歴を考慮した上で生活が出来るように努めている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	各利用者様の過ごし方、意向を優先し、現状の把握に努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人の課題とケアのあり方について、本人、ご家族の意向、介護職員の見立てなどから介護計画を作成している	ケアプランの作成時は、利用者や家族の生活への意向を聞き取っています。アセスメントも詳細に行い、カンファレンスにおいても現プランの評価や課題を分析しています。アセスメント、ケアプラン、介護記録のさらなる連動性に検討の余地があります。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の記録について出来る限り細かく記し、介護計画に活かしている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスにとらわれない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時のニーズに合わせて、出来る対応を行っている		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	必要に応じて近隣のお店にでかけたり等の外出支援を行っている		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人及びご家族の希望を都度確認して医療機関とつなぎ、適切な医療を受けられるように努めている	受診先は利用者や家族の意向に任せていますが、大半は、2週間ごとの訪問診療を選択しています。従来からの医院や他科受診は、家族の協力も得ながら職員が支援しています。週1回、訪問看護師による健康状態の確認が行われています。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護ステーションとの連携をとり、都度状態の確認、相談を行っている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている、又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院の付き添い、情報交換を行っている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者とともにチームで支援に取り組んでいる	重度化の際の指針を契約時に説明し、実際に重度化した場合にご家族と終末期のあり方を相談、検討した上で終末期ケアを行っている	入居時に指針で重篤時の対応を説明して同意を得ています。利用者に看取りへの意向を尋ねていますが、全員の明確化には至っていません。医療従事者や家族と情報を共有し、尊厳ある最期の支援が行われています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変や事故については早急に管理者に報告する他、定期的な応急手当にかんしての訓練を行っている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的な災害訓練を行っている	設備業者の立会いの下、日中での火災を想定した避難訓練を終えています。今回は、入浴や排泄時などケア場面も視野に入れた地震や水害、夜間帯に火災発生とした訓練を予定しています。避難場所の確認はこれからとしています。	

Ⅳ その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	不適切なケアにならないよう、声掛けやプライバシーを考慮した声掛けを行っている	利用者を尊重するケアを基本としています。職員自身が不適切であると自覚がないときは、管理者や職員間でもその都度話し合い、正しい理解に繋がっています。個人情報に関する守秘義務も守られています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者様が意思選択できるように声かけを行っている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望に沿って支援している	ご本人のペースで生活が出来るように、支援のタイミングなどを考慮している		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その人らしい身だしなみを考慮して支援している。(髪型など)		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	ひとりひとりの食事の趣向の把握、家事への参加に努めている	食事は、冷蔵庫にある物や備蓄品、菜園の野菜を活用して作っています。具材が2種類入りの味噌汁に3品の主菜、副菜を食卓に上げ、利用者は完食しています。誕生日は要望に応じ、ときには外食や持ち帰りで変化を付けています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	1日の食事、水分摂取量を記録し、把握している		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアを行っている		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	出来る限りの自立支援を行っている。	自立排泄者の見守り、必要時は2人介助を行い、トイレでの排泄や布下着の着用を基本として、羞恥心に配慮した支援に努めています。衛生用品の使用時は職員間で検討し、家族の同意を得て開始しています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	牛乳などの提供や、本人の運動量を把握して必要に応じた支援を行っている		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に沿った支援をしている	入浴のタイミングや時間等は見守りしながらであるが出来る限り本人のペースで入浴できるように務めている。無理強いはいしない。	入浴は、自立入浴者の見守りや声掛けで浴室に誘い、週2回を基本に湯船で寛げる支援が行われています。状態により足湯にシャワー浴もありますが、肩にタオルを掛けるなど冷え対策に努めています。ときには入浴剤入りの足湯を企画し、利用者をリラックスにつなげています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	昼間についても休息が必要と感じた場合は布団に案内する等、本人の様子を観察しながら支援している		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	ひとりひとりの処方の状況の把握に努め、変更があった際の観察を行っている		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	本人の趣味、楽しみ、やりがいを考慮して適宜その支援を行っている		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望に沿って、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	近隣のツルハと一緒に買い物に行く等の支援を行っている	周辺の散歩やプランターの野菜の成長を楽しみながらの水やり、近くの店に買い物に出かけています。ときには個別支援を含め動物園巡りや通院後にソフトクリームを食べたり、大型スーパーで買い物や外食、釣り堀、映画館、紅葉ドライブなどで外気に触れ、程良い刺激となっています。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	財布を持っている利用者様についてはそのまま持っていていただく。使用についてはあまり機会を設けていない		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話や手紙等、希望があれば対応している		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	家庭的な雰囲気を損なわないように留意している。温度や湿度にも留意している	ゆったりとしたリビングには、クリスマスツリーがひととき華やかな雰囲気を醸し出しています。利用者が何処にいても心地良さが感じられるよう環境整備に努めており、その中で利用者は、洗濯物を畳み、食器やテーブルを拭き、職員や利用者との会話を楽しんでいます。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	現状、あまり共有スペースで一人で入れる空間は用意できていない		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は基本家具などは持ち込みで、本人が使い慣れた、見慣れたものを置いていただくようご家族にお願いしている	洗面台やクローゼット、ナースコールを備えている居室には、利用者が気に入っている椅子やダンス、テレビ、仏壇、絵画等を持ち込んでいます。1階のユニットには、ペットの猫を連れてきている利用者もいます。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレの標識などを用いて、ご自身でもわかるように考慮している		